

阿嘉島の動物の方言について

当 山 昌 直*

On the dialect of animals of Aka-jima, the Okinawa Islands

Masanao TOYAMA

方言は、島の自然と風土のなかで長い年月をかけて育ってきた無形の文化であり、島もしくはその地域の財産ともいえる。このように貴重な方言を知っている人は年々急速に減少し続けており、方言の消失はそれほど遠くはない今までいわれている状態にある。

このようななかで筆者は、1981年9月30日に阿嘉島にて動物の方言を調査することができた。調査は、2、3人の被調査者によるものではあったが、今後の方言調査の資料になればと思い、報告することにした。

調査方法

調査は、あらかじめ現地の方々に方言をよく知っている人を教えてもらい、それを参考にして被調査者を探した。また、被調査者に適する者として、①調査対象地で育った者、②対象となる動物の方言名をよく知っている者、③年齢がおよそ50代以上の者等の基準を決めて調査をすすめた。聞き込みの手順として、会話のなかで動物の形態や生態などの諸特徴をあげて被調査者にその動物の方言名をあげてもらった。更

にその動物を確認するため池原・下謝名(1976)や千石(1979)にある写真を提示した。また、場合によっては、写真の提示が先になることもあった。聞き込み調査の模様は市販のカセットテープに録音された。録音された方言は、大平養護学校島尻沢一氏によって音声表記に直された。

調査結果

明治33年7月6日生れの垣花武栄氏、明治40年11月25日生れの金城亀六氏、明治41年9月7日生れの新城慶一氏に被調査者になってもらった。垣花氏の場合は、家庭へ訪問して調査をし、金城氏と新城氏の場合は、耕作地で二人一緒に作業をしているところを調査に協力してもらった。調査の結果は、整理番号の次に筆者が形態や生態などで示した動物の一般的な名称、その次に垣花氏の回答、またその次には金城氏と新城氏の回答を一緒に示した。回答者で2つ以上の方言名を答える場合もあったが、それも結果に示した。 — は回答のなかったことを示す。

(★とうやま まさなお 学芸員)

番号	質問した動物名	垣花武栄氏の回答	金城龜六・新城慶一氏の回答
1.	ジャコウネズミ	bi:tʃa:	—
2.	コウモリ	ka:buja:	—
3.	ネズミ	?weŋtʃu	?weŋtʃu
4.	イヌ	?iŋ	?iŋ
5.	ネコ	maja:	maja:
6.	ウマ	mma	mma
7.	ブタ	?wa:	?wa:
8.	ケラマジカ	konaʃi	—
9.	ウシ	?uʃi	?uʃi
10.	ヤギ	çi:dʒa:	çi:dʒa:
11.	サギ	ʃirusa:dʒa:	sa:dʒa:
12.	サシバ	taka	taka
13.	ニワトリ	tui	tui
14.	ウズラ	—	?udʒiraduigwa:
15.	シギ	hamatʃidʒui	hamatʃidʒui
16.	ハト	hoʃu	ho:tu
17.	カラスバト	?uʃiboo:tu	?uʃihoo:tu
18.	キジバト	kamabo:tu	—
19.	フクロウ	maja:dʒikuku	maja:dʒikuku
20.	アカショウビン	kukaru	Fukaru:
21.	ツバメ	matter:ra:	matter:ra:
22.	ウグイス	—	?uguisu
23.	ヒバリ	tʃintʃina:	tʃintʃina:
24.	サンコウチョウ	nagadʒukanta:	—
25.	メジロ	somina:	sor:mina:
26.	スズメ	kura:gwa:	—
27.	カラス	garasu	garasa:
28.	ヤモリ	ja:rur: janimabuja:	ja:rur: janimabuja:
29.	トカゲモドキ	çijakai	çijakai
30.	キノボリトカゲ	?ahaka:	?ahaka:
31.	オキナワトカゲ	?andatʃa:	—
32.	ヘリグロヒメトカゲ	?andatʃa:	—
33.	アオカナヘビ	?andatʃa:	—
34.	メクラヘビ	—	—
35.	ガラスヒバア	garasuçiba:	garasuçiba:
36.	リュウキュウアオヘビ	?o:ŋnadʒa:	?o:ŋnadʒa:

37. アカマタ	ʔakamata:	ʔakamata:
38. ハイ	—	—
39. ヒメハブ	kuwa:	kuΦa:
40. ハブ	habu	—
41. イモリ	sʊ:dʒimuja:	sʊ:dʒimuja:
42. カエル	ʔatabitʃa: ʔatabiku:	ʔatabitʃa:
43. トンボ	ʔa:ke:dʒu:	ʔa:ke:dʒu:
44. バッタ	tunuge:	tunuge:
45. カマキリ	ʔiʃatu:	ʔiʃatu:
46. ゴキブリ	çɪ:ra: to:bɪ:ra:	çɪ:ra: to:bɪ:ra:
47. セミ	su:wa: su:wasuwa:	ʃu:wa:
	gitʃɪtʃi: ʔasasaja:	
48. ガ	ha:beru:	ha:be:ru:
49. チョウ	ha:beru:	ha:be:ru:
50. カ	gadʒaŋ	gadʒaŋ
51. ハエ	he: ʔo:be:	he: ʔo:be:
52. ハチ	—	tʃiburubatʃi nukabatʃi
53. 幼虫	jaku	jaku
54. ムカデ	ŋkadʒi	ŋkadʒi
55. オオゲジ	tubɪŋkadʒi	tubɪŋkadʒi
56. クモ	ku:ba:	kuba:
57. ミミズ	mimidʒzi	mimidʒa:
58. カタツムリ	tʃuŋnaŋ	tʃiŋnaŋ

結果の検討

回答として得られた方言は、正確にはどの動物種、もしくは種群をさしているのか検証しなければならない。質問に用いた動物名は、便宜的なものでありかならずしも種名をさしているわけではない。そこで、質問に対して回答された方言が動物界のどの種名をさすのか検討して

みた。検討の結果は、整理番号・方言名・和名・学名の順で示されており、種小名で表示できないものは、“属・科・目”などの大分類群にまとめて()内に表示した。また、方言が一つの種類だけをさしていると思われる場合は○をつけて示した。なお、家畜は対象からはずした。

番号	方言名	和 名	学 名
1.	bi:tʃa:	◎リュウキュウジャコウネズミ (コウモリ類：翼手目)	<i>Suncus riukiuanus</i> (CHIROPTERA)
2.	ka:buja:	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>
3.	?wenjtʃu	ドブネズミ	<i>Rattus norregicus</i>
8.	ko:naji	◎ケラマジカ	<i>Cervus nippon</i> var. <i>keramae</i>
11.	sə:dʒa: sirusa:dʒa:	(サギ類：サギ科)	(ARDEIDAE)
12.	taka	サシバ	<i>Butastur indicus</i>
14.	?udʒiraduwigwa:	◎ミフウズラ	<i>Turnix suscitator</i>
15.	hamatʃidʒui	(シギ類：シギ科)	(SCOLOPACIDAE)
16.	ho:ju ho:tu	(ハト類：ハト科)	(COLUMBIDAE)
17.	?uʃibo:tu	◎カラスバト	<i>Columba janthina</i>
18.	kamabotu	◎キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>
19.	maja:dʒikuku	(フクロウ類：フクロウ科)	(STRIGIDAE)
20.	kukaru ɸukaru:	◎アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>
21.	matte:ra:	◎ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>
22.	?uguisu	◎ウグイス	<i>Cettia diphone</i>
23.	tʃintʃina:	◎セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>
24.	nagadʒu:kanta:	◎サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>
25.	so:mina:	◎メジロ	<i>Zosterops japonica</i>
26.	kura:gwa:	◎スズメ	<i>Passer montanus</i>
27.	garasu garasa:	◎ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>
28.	ja:ru: janimabuja:	(ヤモリ類：ヤモリ科)	(GEKKONIDAE)
29.	çjakai	◎マダラトカゲモドキ	<i>Eublepharis kuroiwae orientalis</i>
30.	?ahaka:	◎キノボリトカゲ	<i>Japarula polygonata polygonata</i>
31.	?andatʃa:	オキナワトカゲ	<i>Eumeces marginatus marginatus</i>
32.	?andatʃa:	ヘリグロヒメトカゲ	<i>Ateuchosaurus pellopleurus</i>
33.	?andatʃa:	アオカナヘビ	<i>Takydromus smaragdinus</i>
35.	garasuçiba:	◎ガラスヒバア	<i>Amphiesma pryeri pryeri</i>
36.	?o:ŋnadʒa:	◎リュウキュウアオヘビ	<i>Opheodrys semicarinatus</i>
37.	?akamata:	◎アカマタ	<i>Dinodon semicarinatus</i>
38.	kuwa: kuFa:	◎ヒメハブ	<i>Trimeresurus okinavensis</i>
39.	habu	◎ハブ	<i>Trimeresurus flavoviridis</i>
41.	sudʒimuja:	◎シリケンイモリ	<i>Cynops ensicauda</i>
42.	?atabitʃa: ?atabiku:	(カエル類：カエル目)	(SALIENTA)
43.	?a:ke:dʒu:	(トンボ類：トンボ目)	(ODONATA)
44.	tunuge:	(バッタ類：バッタ科)	(ACRIDIDAE)
45.	?iʃatu:	(カマキリ類：カマキリ科)	(MANTIDAE)

46. q̥i:ra:	to:b̥i:ra:	(ゴキブリ類：ゴキブリ目)	(BLATTARIA)
47. su:wa	ſu:wa:	(セミ類：セミ科)	(CICADIDAE)
	su:wasuwa:	◎クロイワツクツク	<i>Meimuna kuroiwae</i>
	git̥igit̥i:	◎リュウキュウアブラゼミ	<i>Grapto saltria bimaculata</i>
	?asasaja:	◎クマゼミ	<i>Crypto tympana facialis facialis</i>
48. ha:be:ru:		(ガ類：鱗翅目)	(DEPIDOPTERA)
49. ha:ber:u:		(チョウ類：鱗翅目)	(DEPIDOPTERA)
50. gadʒaŋ		(カ類：カ科)	(CULICIDAE)
51. he: ʔo:be:		(ハエ類：双翅目)	(DIPTERA)
52. tjiburubat̥i		◎ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>
53. nukabat̥i		◎チビアシナガバチ	<i>Ropalidia picta</i>
54. jaku		(幼虫：鱗翅目の幼虫)	(SCOLOPENDROMORPHA)
55. ɻkadʒi		(ムカデ類：ムカデ目)	<i>Thereuopoda clunifera</i>
56. tubigkadʒi		オオゲジ	(ARANEAE)
57. ku:ba:		(クモ類：真正クモ目)	(NEOLIGOCHAETA)
58. mimidʒzi mimidʒa:		(ミミズ類：新貧毛目)	(NEOLIGOCHAETA)
59. tʃuŋnaŋ tʃiŋnaŋ		(カタツムリ類：柄眼目)	(STYLOMMAТОPHORA)

哺乳類

阿嘉島にはオオコウモリ類はみられないらしい。〈ka:buja:〉は小形のコウモリ類をさしているようである。昔は、廐にも〈ka:buja:〉名付けて呼んでいたそうである。

〈k.o:naji〉はケラマジカのみにつけられている固有の方言である。慶留間島にも同様な方言があるらしい（上江洲均、私信）。

鳥類

カラスバトとキジバトにつけられた方言名を確認することができた。前者は、山にすむハトでからだが大きくて黒っぽい、後者は、畑にもおりてくる褐色のハトでそれほど多くはないという。

〈maja:dʒikuku〉はフクロウ類の方言で、顔がネコに似ていることから名付けられているらしい。

〈nagadʒu:kanta:〉は、尾が長くて頭の上は冠状になっていることから名付けられているらしい。これは、サンコウチョウの雄の標徴を示すものである。

スズメは、戦前の阿嘉島ではみられなかった

らしい。戦後になって入ってきたようであり、その後、増えたものであるとのことであった。
爬虫類

ヤモリ類の方言には、〈ja:rū:〉と〈janimabuja:〉がある。前者は、戦後になって外部から入ってきたもので、簡易で使いやすいのでよく利用されるようになったとのことである。後者は、戦前からよく使われていたということであった。したがって、後者は阿嘉島の本来の方言のようである。阿嘉島のヤモリ類は、ニホンヤモリ・ホオグロヤモリ・オンナダケヤモリの三種類が記録されている（当山、1983）ので、方言はこの三種類を含めていることになる。

〈çijakai〉は、これにさされると『日中：ヒナカ』に死ぬという俗説から名付けられているようである。この方言はトカゲモドキをさしていることが写真によって確認できたが、本種の形態（特に尾）が毒々しく述べるのだろう。本種は無毒である。トカゲモドキの方言について、渡嘉敷島・渡名喜島・久米島では、本種のことを〈ʔaʃihabu〉もしくは〈dʒi:habu〉と呼んでいる。ところで、上述の三島が類似性のある方言を有

し、阿嘉島だけが異なる方言を有していることは奇妙である。地理的な位置関係をみても、阿嘉島も類似性を有していなければならないはずである。それで、三つの島の方言と阿嘉島の方言とを比較して、どちらが本来の方言により近いか考えてみた。

三つの島で用いられている〈?ajihabu〉の〈?aji〉は『足』のことをさし、〈habu〉は『ハブ』にたとえて毒をもつ動物ということを強調したものと解釈される。つまり、『足のあるハブ（のようなもの）』という意味として解釈できるようである。しかし、『足』の意味の方言であるならば〈çisa〉とすべきところであり、〈?aji〉とするのは本来の方言とは違うので疑問が残る。したがって、〈?ajihabu〉というのは近年になって用いられるようになった造語の可能性が高い。〈dʒi:habu〉についても同様で、近年になって用いられるようになった造語の可能性がないわけでもない。つまり、現在用いられている〈?ajihabu〉や〈dʒi:habu〉より以前に使用されていた方言があったのではないかと思われる所以である。阿嘉島にはハブが分布していないので、ハブの語句を用いることによってその毒性を強調する必要がなく、それで、方言も変化せずに残った可能性がある。したがって、以前から使用されているトカゲモドキの本来の方言というものが、今回阿嘉島で収集された〈çijakai〉であろうと思われる。おそらく、渡嘉敷島・渡名喜島・久米島でもこれに類する方言が使用されていたと考えられる。もし、その方言が残っているなら今後の調査によって発見されることと思われる。

両生類

カエル類の方言には、〈?atabitʃa:〉と〈?atabiku:〉がある。前者は那覇方面から入ってきたものであり、後者は阿嘉島の本来の方言であるとのことであった。

昆虫類

沖縄には、昆虫類を題材にした童謡が多くみ

られる。カマキリ類〈?ijatu:〉もよく用いられている昆虫の一つである。今回はたまたまその童謡を採譜する機会があったので次に示す。

J = 80

2:fa tu ju: banj nu:kara ga
zaka ma mi du ka ra ru
dan sika dan sika pu: ci ttʃan

カマキリをつかまえてきて、その顔前に小さな技などをさし出し、歌をうたいながらあそぶものである。歌にあわせて小技を顔前にさし出したりひっこめたりすると、カマキリもその小技のリズムにあわせて頭部を前後に動かすのである。カマキリの特性を生かしたおもしろい遊びといえよう。なお、島袋（1972）に収録されているものより短くなっているが、これは簡略化されたことによるものであろう。

セミ類とハチ類については、琉球大学東清二教授に種名を教えて頂いた。セミ類は、それぞれの鳴き方によって名付けられているのが興味深い。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、調査に協力して頂いた垣花武栄・金城亀六・新城慶一の各氏に感謝する。また、音声表記に直す作業に協力して頂いた島尻沢一氏に感謝の意を表わす。

参 考 文 献

東清二・金城政勝, 1978. 阿嘉島と慶留間島の昆虫相附屋嘉比島の蝶類追加. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集、ケラマジカ実態調査

- 報告Ⅲ：177—209.
 池原貞雄, 1974. 慶留間群島の陸上脊椎動物.
 沖縄海岸国定公園拡張候補地学術調査報告：
 187—199. 沖縄県.
 池原貞雄・下謝名松栄, 1975 沖縄の陸の動物。
 風土記社, 沖縄. 143p
 宮城邦治・三井興治, 1981. 慶留間島の陸上脊
 推動物相. 沖縄生物学会誌, (19) : 53—56.
 千石正一(編), 1979. 原色両生・爬虫類. 家
 の光協会, 東京. 206p.
 島袋全発, 1972. 沖縄童謡集. 東洋文庫 212,
 凡社, 東京. 254p.
 当山昌直, 1983. 沖縄群島の両生爬虫類相(II)
 —座間味村の両生爬虫類—. 県立博物館総合
 調査報告書Ⅲ：16—22.
 内田亨, 1965. 動物系統分類の基礎. 北隆館,
 東京. 325p.
 与那城義春, 1978. 阿嘉, 慶留間, 屋嘉比島の
 鳥類. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第12集,
 ケラマジカ実態調査報告Ⅲ：151—156.

正 観賞 表 (27ページ)

記載

(幼虫：鱗翅目の幼虫)	(SCOLEPENNDROMORPHA)
(ムカデ類：ムカデ目)	<i>Theropoda ctenifera</i>
オオゲジ	(ARANEAE)
(クモ類：真正クモ目)	(NEOLIGOCHAETA)
(ミミズ類：新貧毛目)	(NEOLIGOCHAETA)
(カタツムリ類：柄眼目)	(STYLOMMAТОPHORA)

正

(幼虫：鱗翅目の幼虫)	(SCOLEPENNDROMORPHA)
(ムカデ類：ムカデ目)	<i>Theropoda ctenifera</i>
オオゲジ	(ARANEAE)
(クモ類：真正クモ目)	(NEOLIGOCHAETA)
(ミミズ類：新貧毛目)	(NEOLIGOCHAETA)
(カタツムリ類：柄眼目)	(STYLOMMAТОPHORA)